

# 「ろう児の言語獲得について」～ 早期支援の必要性

手話言語法早期制定を求めるフォーラム

一般財団法人全日本ろうあ連盟

石橋大吾

# これまで全日本ろうあ連盟が取り組んできたこと

2015年～2016年

当事者、医師、早期支援関係者をメンバーとした  
「人工内耳に対する見解を示すプロジェクト」

2016年12月、「人工内耳に対する見解」を公表

2019年

当事者、医師、言語聴覚士、ろう教育関係者、  
きこえない子どもの保護者をメンバーとした

「ろう乳幼児等支援対策プロジェクトチーム」を設立

2021年8月、パンフレット「きこえない・きこえにくい  
お子さんを持つパパ・ママへ」を発行



## 当事者から見た難聴児の保護者が必要とする情報・支援

保護者にとって、すべての情報は新しく初めて触れるもの

- 最初に出会う医師や医療従事者等の言葉は、保護者にとって大きな影響力を持つ
- 難聴児の子育ては情報が得づらく、周りに同じような境遇の親子もいないことが多い
- 保護者は不安な心境の中、与えられた情報の範囲で、言われるまま子育ての方向を決めてしまう

本人にとって、本当にいいことでしょうか？

# 難聴児の早期発見・早期療育のために 自治体に求めること

早期にロールモデル(成人のきこえない・きこえにくい人やきこえない・きこえにくい子どもを育てた保護者)と出会う体験の支援

- 保護者が自分の子どもの「育ちの見通し」を持つ機会の保障
- 子ども本人が、きこえないことを特別な状況ではなく、「同じきこえない仲間がいる」と受け止められる機会の保障

- ・ 障害福祉関係課と子育て支援関係課の連携
- ・ (隣県も含めた)地域の関係機関の綿密な情報共有
- ・ 難聴児支援ネットワークへの当事者参画 を強く求めます。

# 提言

- ◆日本全国どこにいても、きこえない・きこえにくい子どもの子育てについて等しく情報が得られ、その情報に偏りが無いこと
- ◆補聴器や人工内耳をしても手話言語にアクセスできる環境
- ◆成人のきこえない・きこえにくい人や人工内耳装用者と触れ合うことができる環境
- ◆きこえる保護者や医療従事者も理解し、安心できる社会

めざすのは、～真の共生社会へ～

- ①きこえる人もきこえない・きこえにくい人も共に生きることができる**共生社会**
- ②日本語も**手話言語も共存**できる社会
- ③SDG'sの理念 **「誰ひとり取り残さない社会」**